

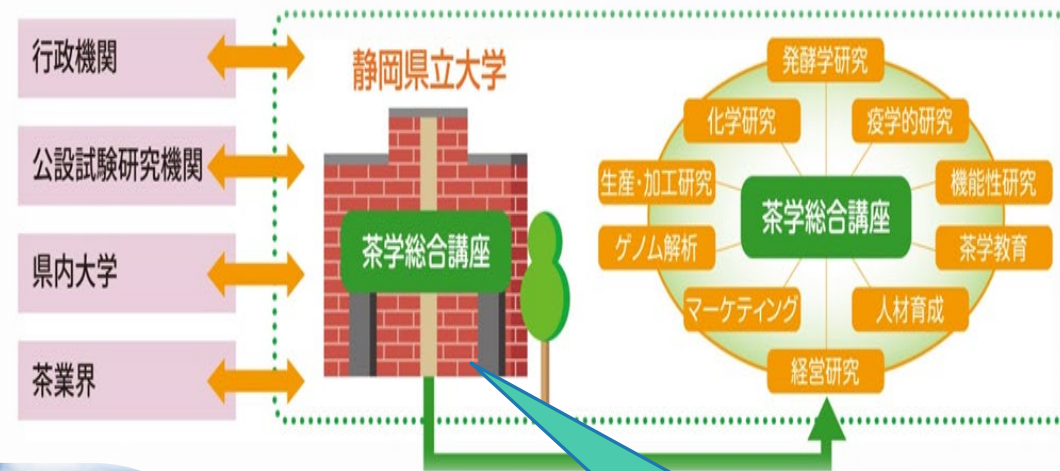
世界の緑茶生産及び 市場の変化と日本茶



静岡県立大学 茶学総合研究センター
中村順行

**茶の栽培加工から
機能性、販売、経営手法まで総合的に科学する!!**

日本では唯一の茶に特化した
茶学総合研究センター



約10人程度の教員が
茶を研究している

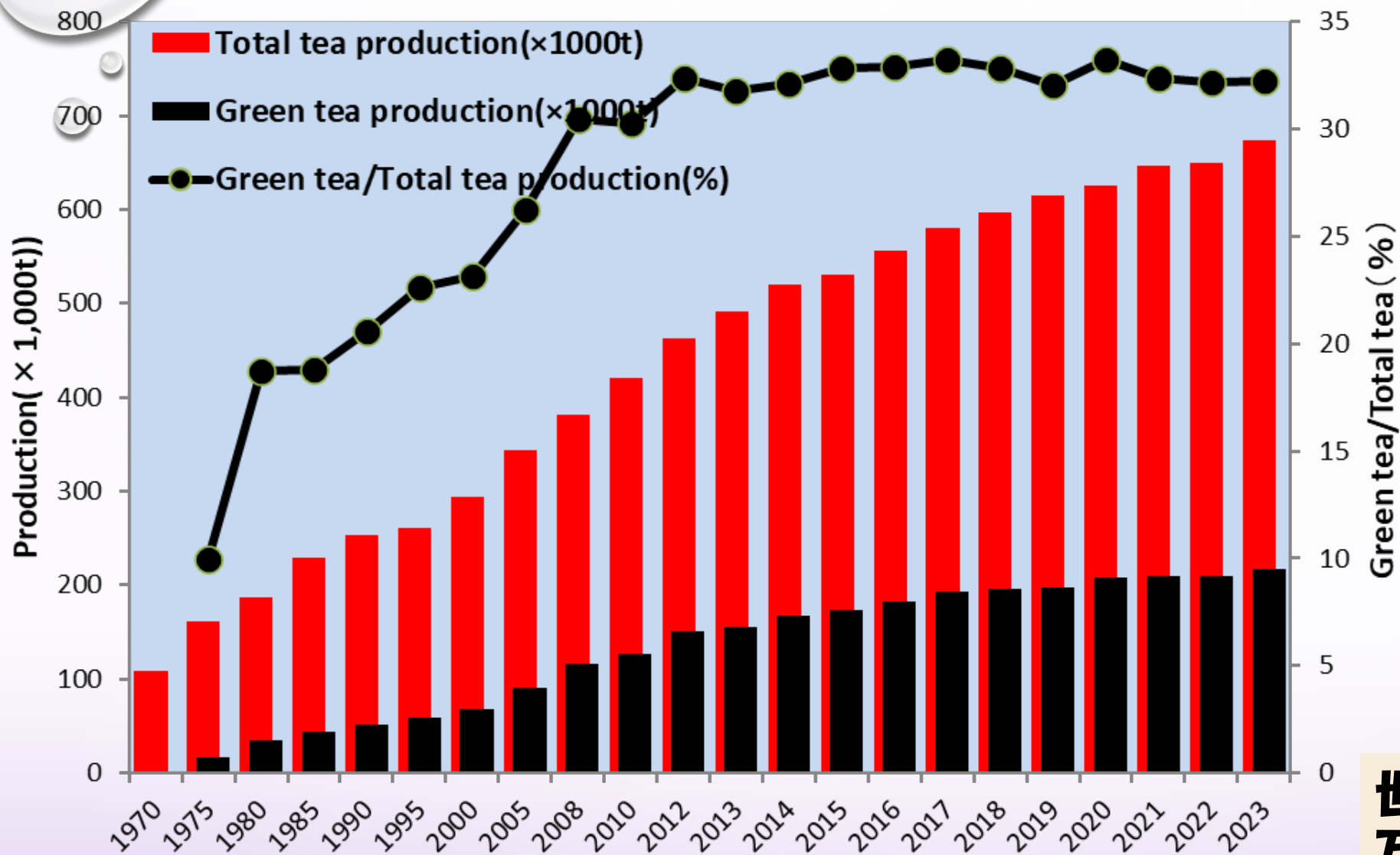
大学内の各教員が茶の研究を各々の専門性を活かして実施している。それらの情報を一元化するとともに、相互に連携した取組みを行う。また、県内の他大学や公設試験研究機関をはじめ行政・茶業界とも連携して茶業振興に貢献する。



 **静岡県立大学**
UNIVERSITY OF SHIZUOKA

世界の茶の生産量の推移

(公社)日本茶業中央会「茶関係資料」
(令7)から作図



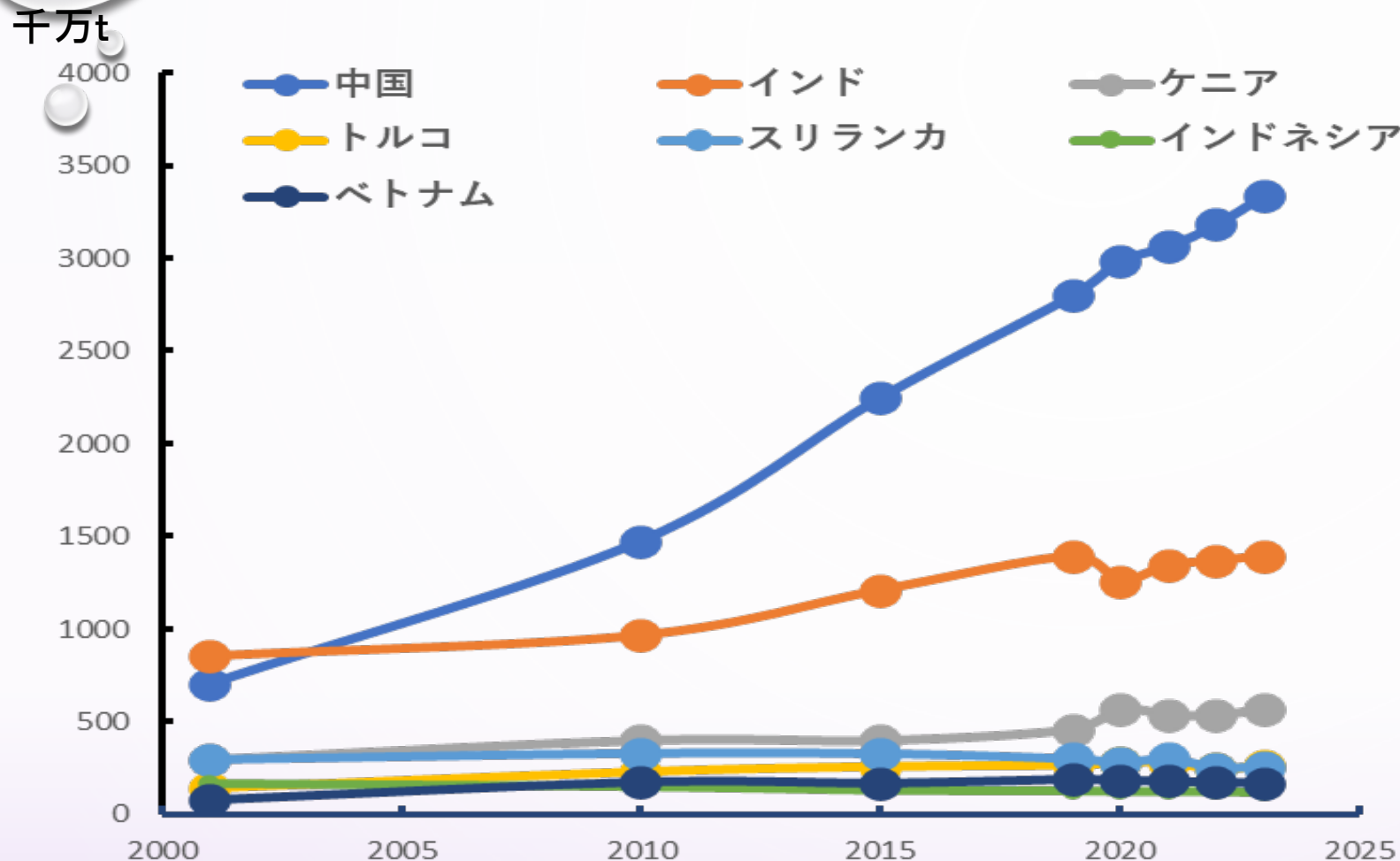
世界の茶の生産量と緑茶比率



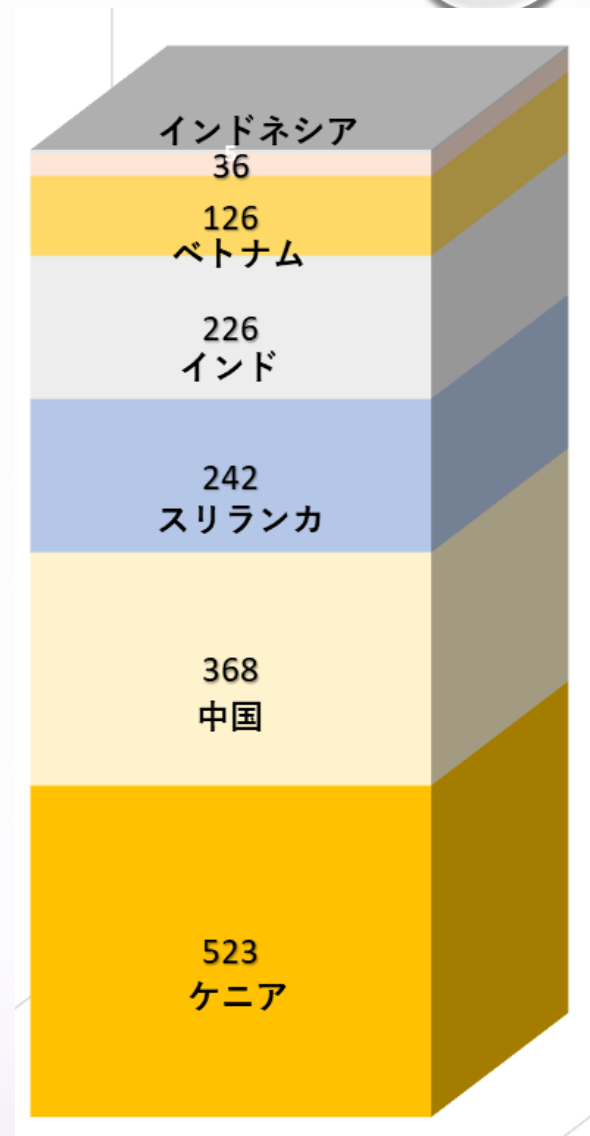
世界の茶生産は10～20
万+ /年の割合で増加し
ている。

世界の主要生産国の推移

(公社)日本茶業中央会「茶関係資料」
(令7)から作図



世界の茶の主要国の生産量の推移

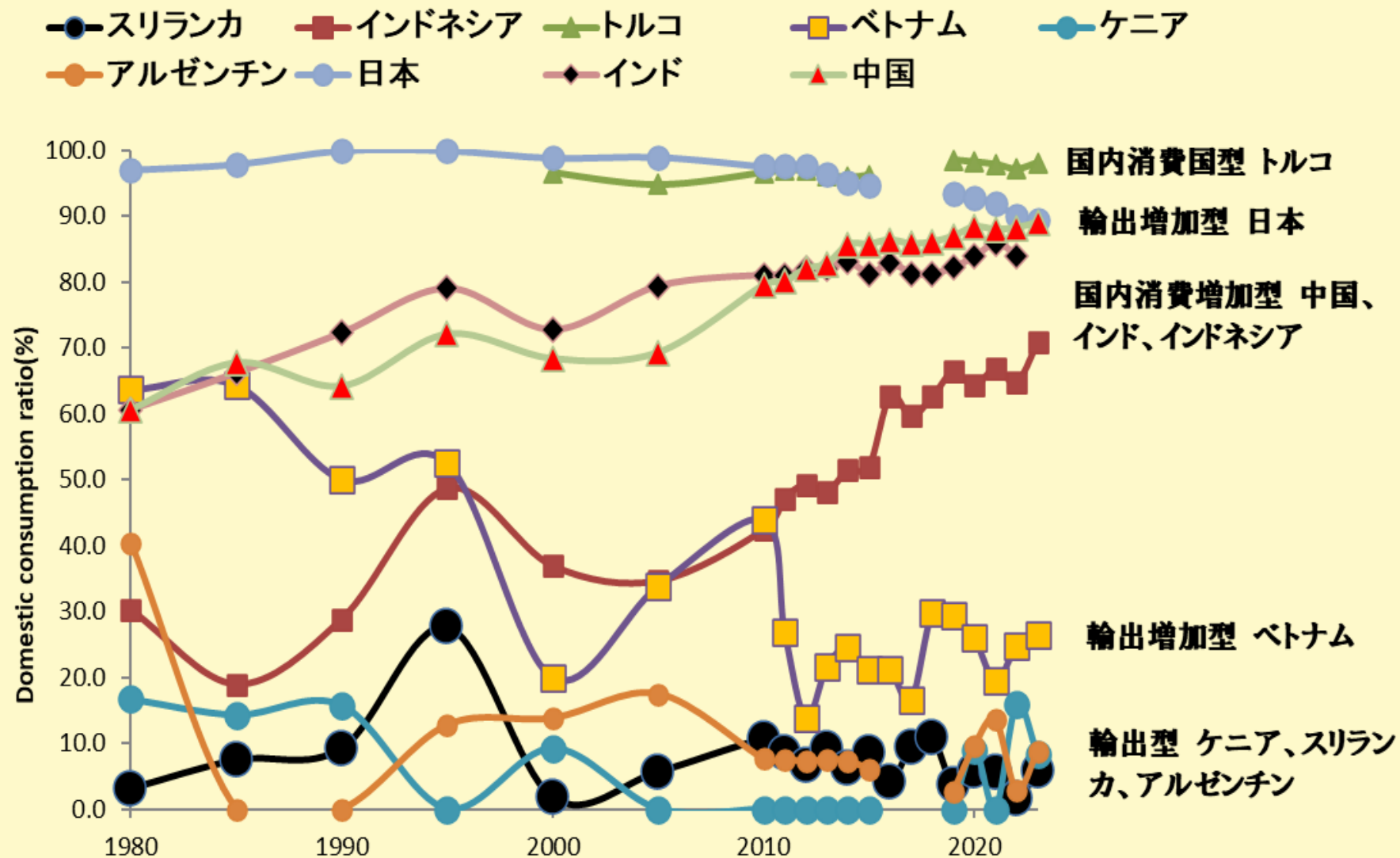


世界の茶の輸出量(2023)

世界の茶生産は中国、インド、ケニア、トルコ、スリランカで87%を占め、輸出量はケニア、中国、スリランカ、インド、ベトナムで80%を占める。

世界の主要生産国の自国内消費の推移

(公社)日本茶業中央会「茶関係資料」(令7)から
作図

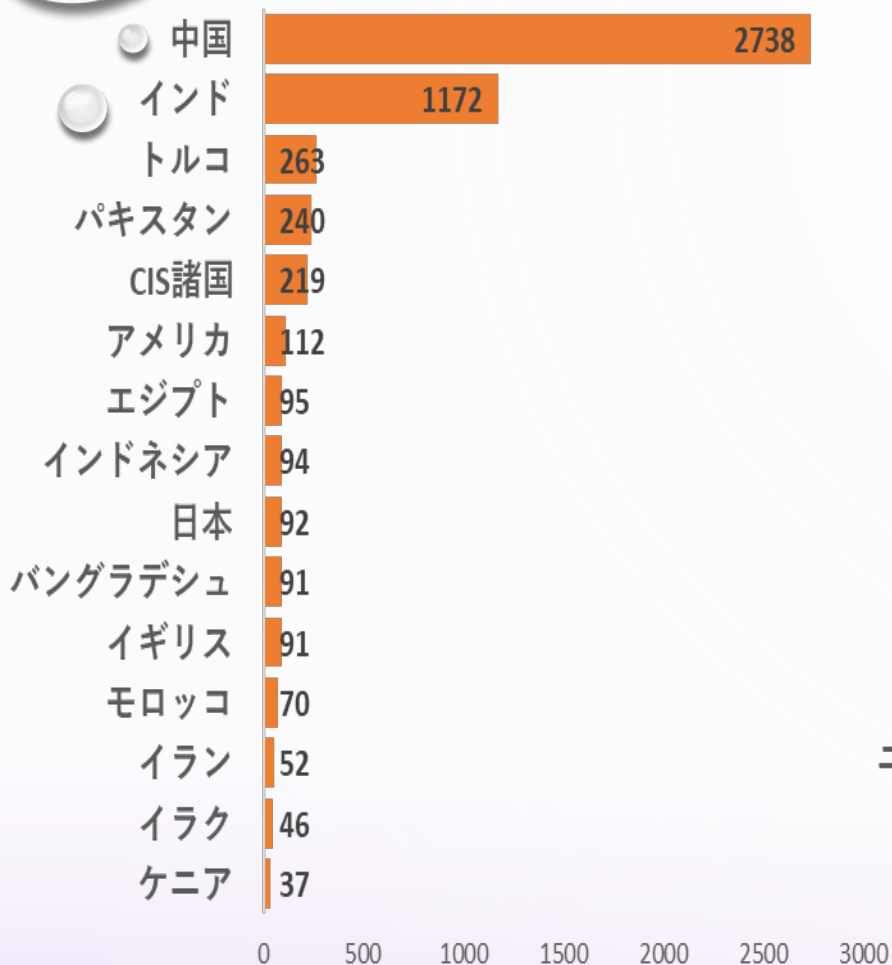


世界の主要生産国の自国内消費比率の推移

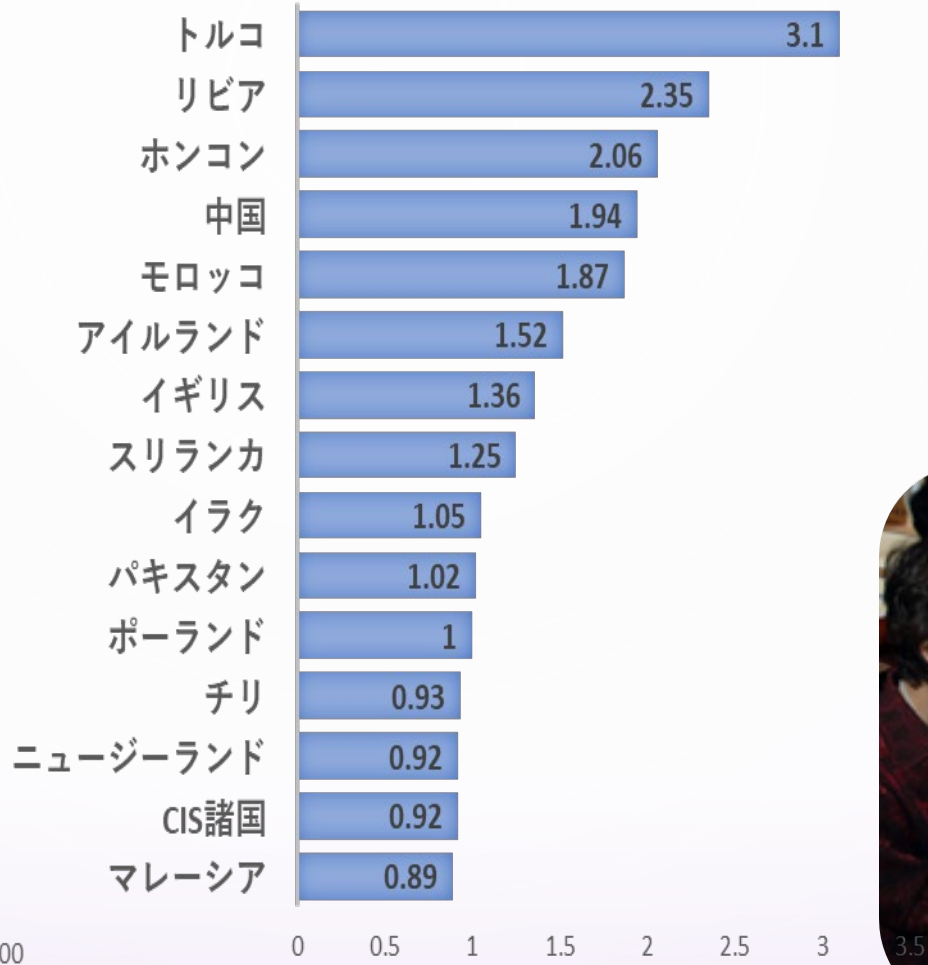
世界の主要茶生産のなかには、ケニア、スリランカのような輸出中心国、トルコのような国内消費国。国内消費が増加している中国、インド、輸出が増加しているベトナム、日本などがあり、その動向が国際流通に大きな影響を及ぼしている。

世界の茶消費量

(公社)日本茶業中央会「茶関係資料」(令7)から作図



国別消費量(2021～2023)



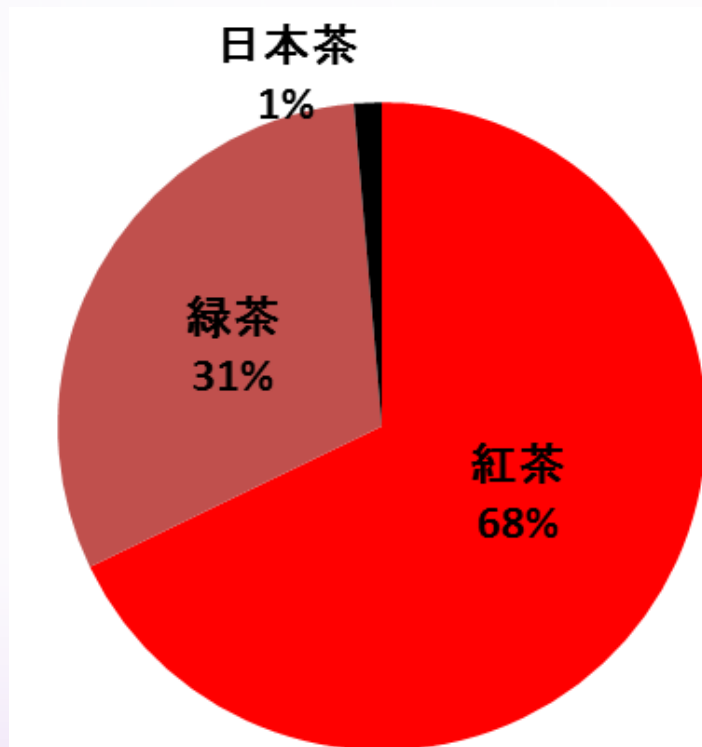
一人当たり国別消費量(2021～2023)



茶の消費は生産国で人口の多い国が多くなるが、一人当たりの消費量はイスラム教の信仰国や大英帝国の影響を受けた国に多いのが特徴である。

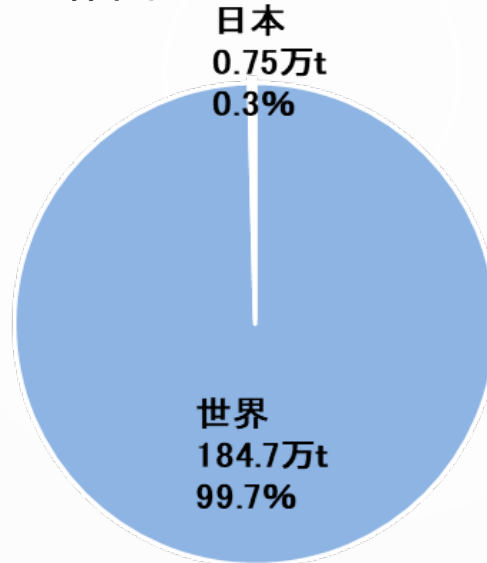
世界における日本茶の位置

日本茶は世界的に見ればごく少量



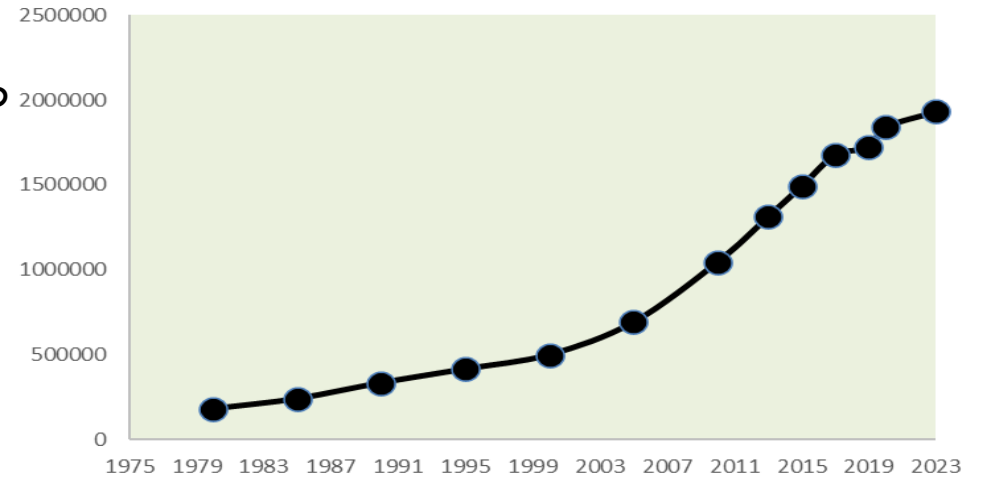
世界の茶の生産量(2023)

(公社)日本茶業中央会
「茶関係資料」(令7)から
作図

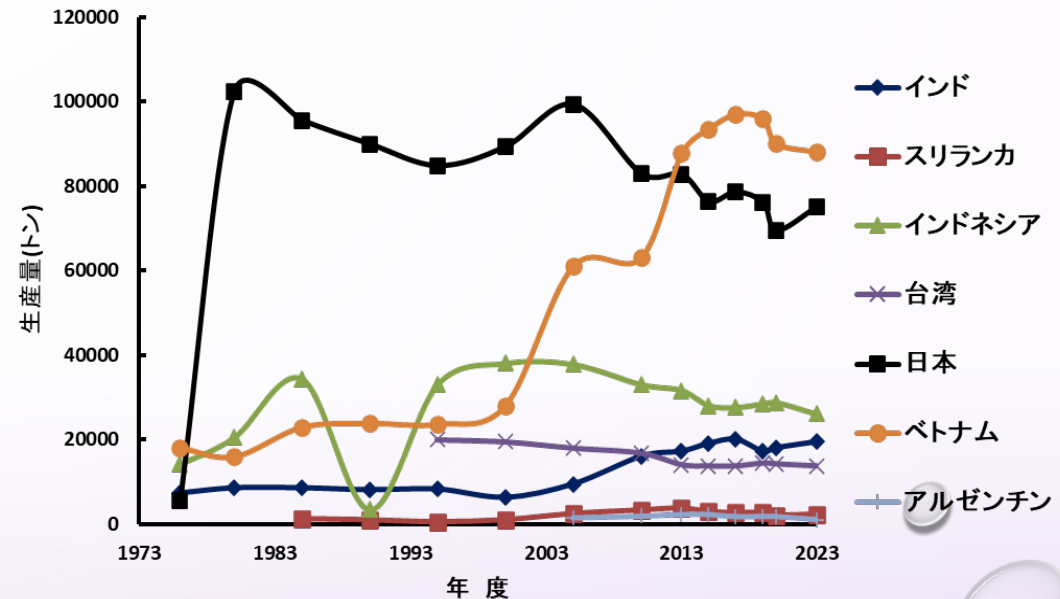


世界のお茶の輸出量
(2023)

生産量(2023)
672万t
日本
約 7.5万t



中国における緑茶の生産量の推移



中国を除く緑茶の生産量の国別推移

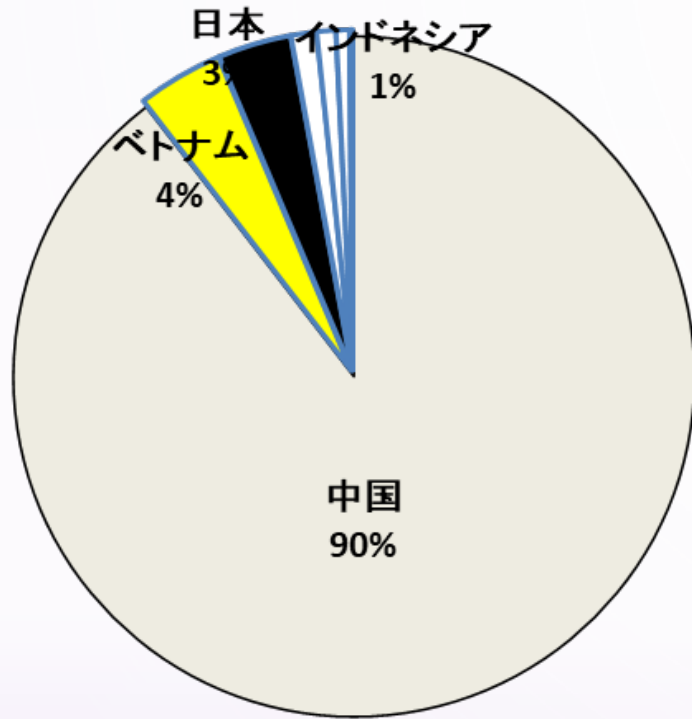
日本茶は世界の茶の1%、海外で飲まれるお茶の0.3%と極少。緑茶だけで見ても3.4%の生産量。中国緑茶が全体の90%を占め、圧倒的に多い。

緑茶中における日本茶の実態

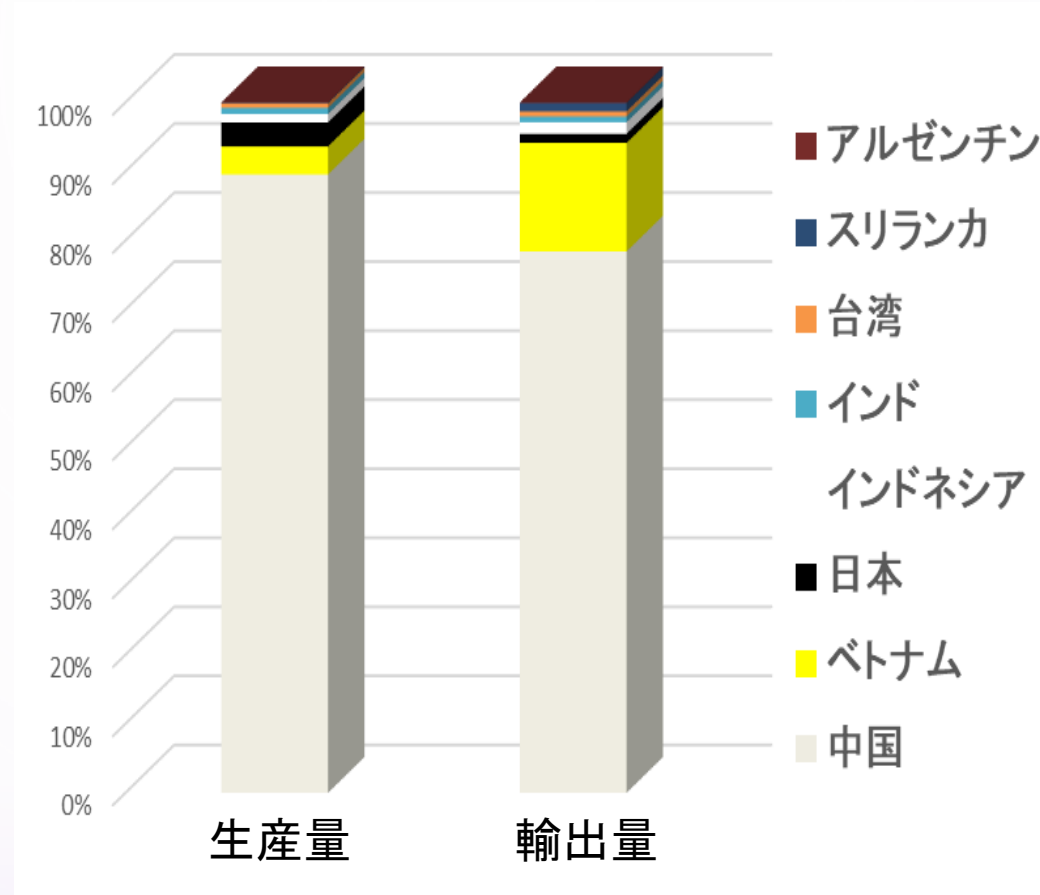
(公社)日本茶業中央会「茶関係資料」(令7)から作図

緑茶の生産量と輸出量(2023)

生産量	輸出量
217.2万t	38.6万t
日本	日本
7.5万t	0.76万t
(3.5%)	(2%)



緑茶の生産比率(2023)



世界における緑茶の生産量と輸出量(2023)



中国産緑茶(釜炒り)

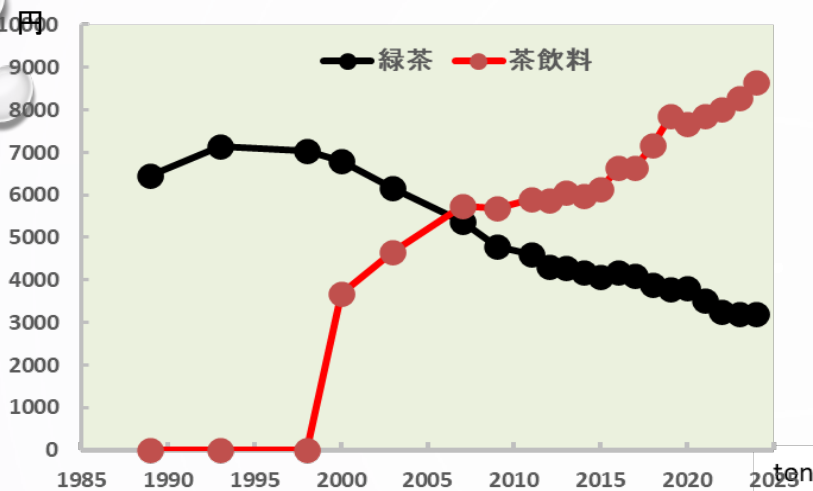


日本産緑茶(蒸し製)

緑茶の生産は圧倒的に中国が多く、輸出も同様である。中国産緑茶は釜炒り製、⁸日本産緑茶は蒸し製。ベトナムの生産量も激増し、多くが輸出されている。

茶業の推移

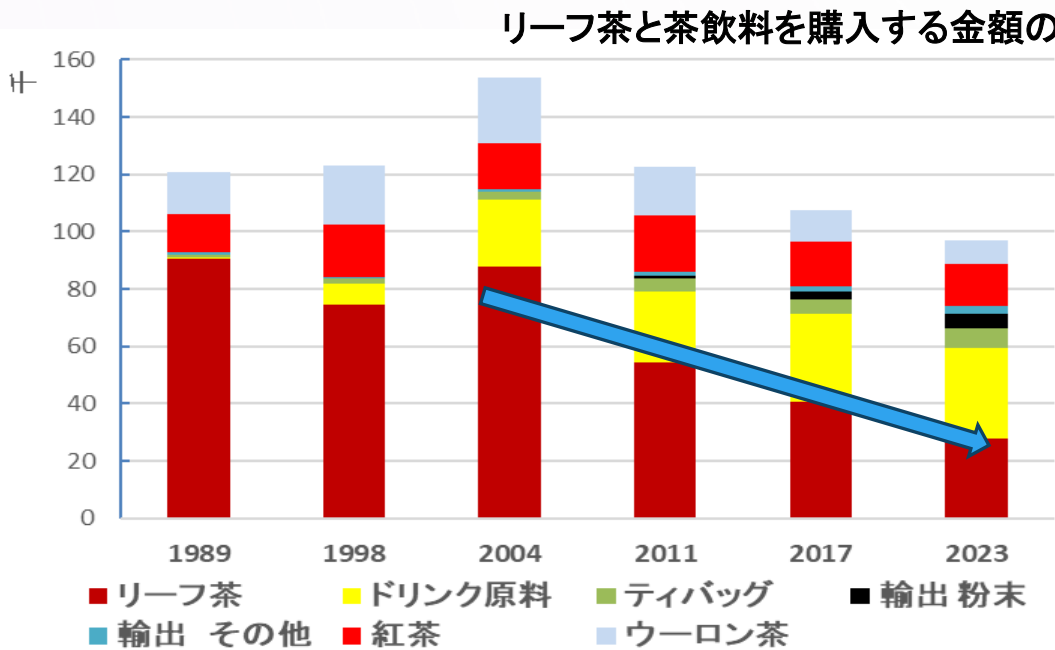
(公社)日本茶業中央会「茶関係資料」(令和7)及び静岡県茶業の現状(令和7)から作図



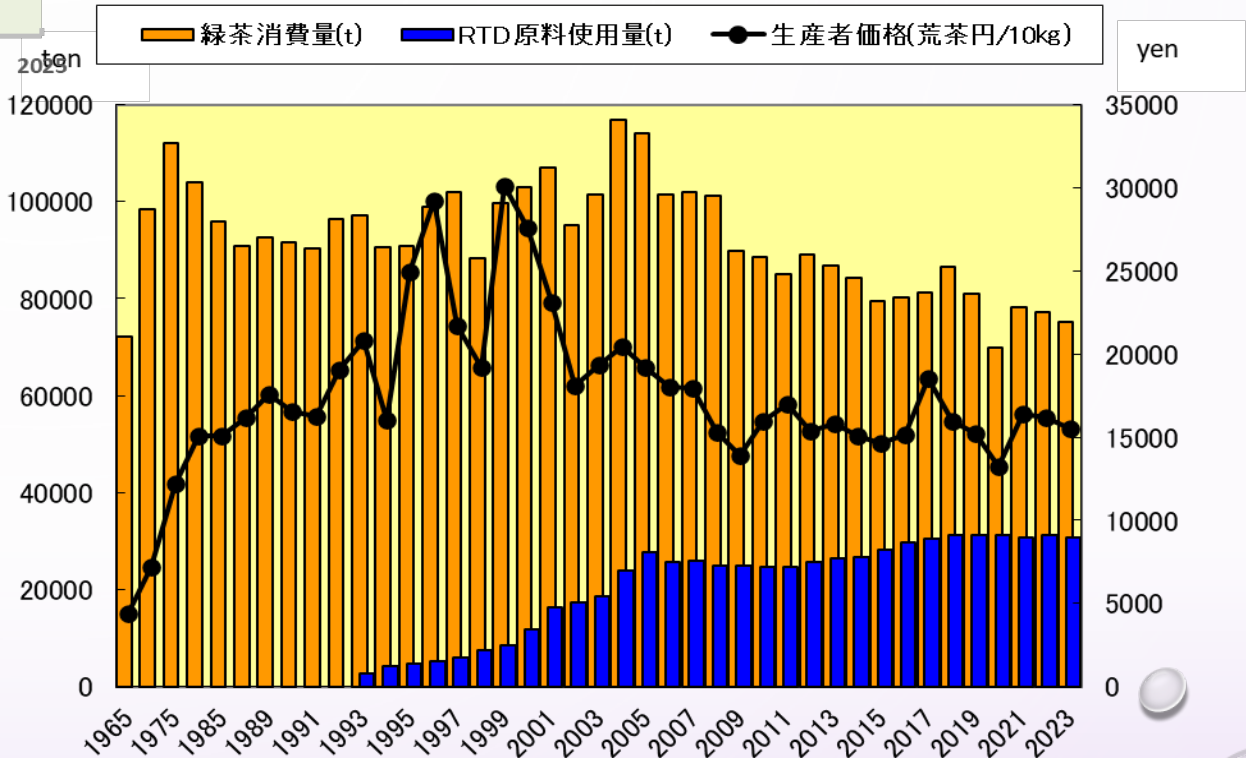
急須で淹れる煎茶は激減



飲み方も大きく変化している



各種飲料の消費量の推移(中村推定含)



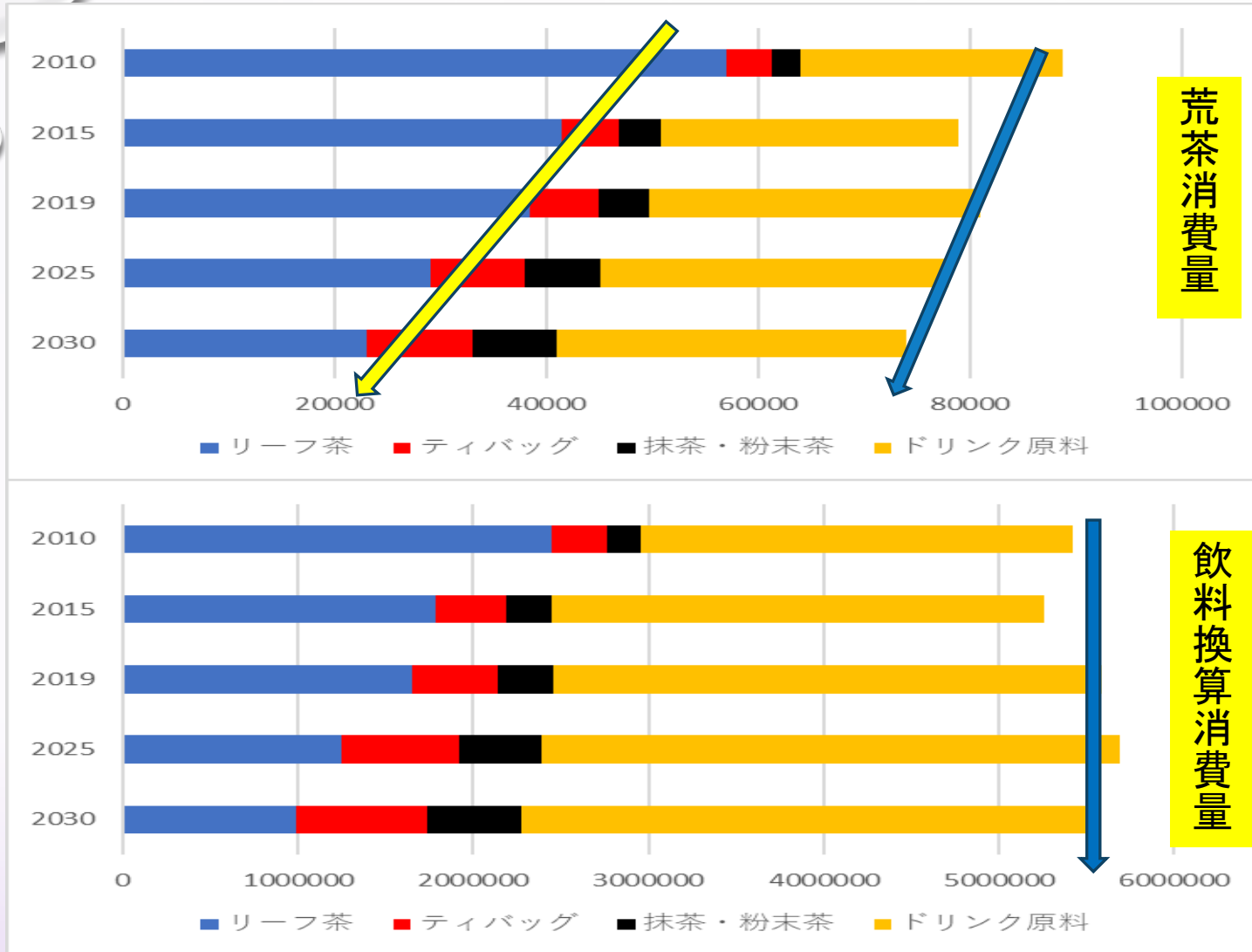
緑茶の消費量、RTD原料、価格の推移

日本では急須で淹れるリーフ茶が減少し、RTDが増加したことにより生産者の原料価格が低下しつつある。

消費者の茶の飲用量(浸出液)は堅調

(公社)日本茶業中央会「茶関係資料」(令7)及び
静岡県茶業の現状(令7)から作図 (中村推定含)

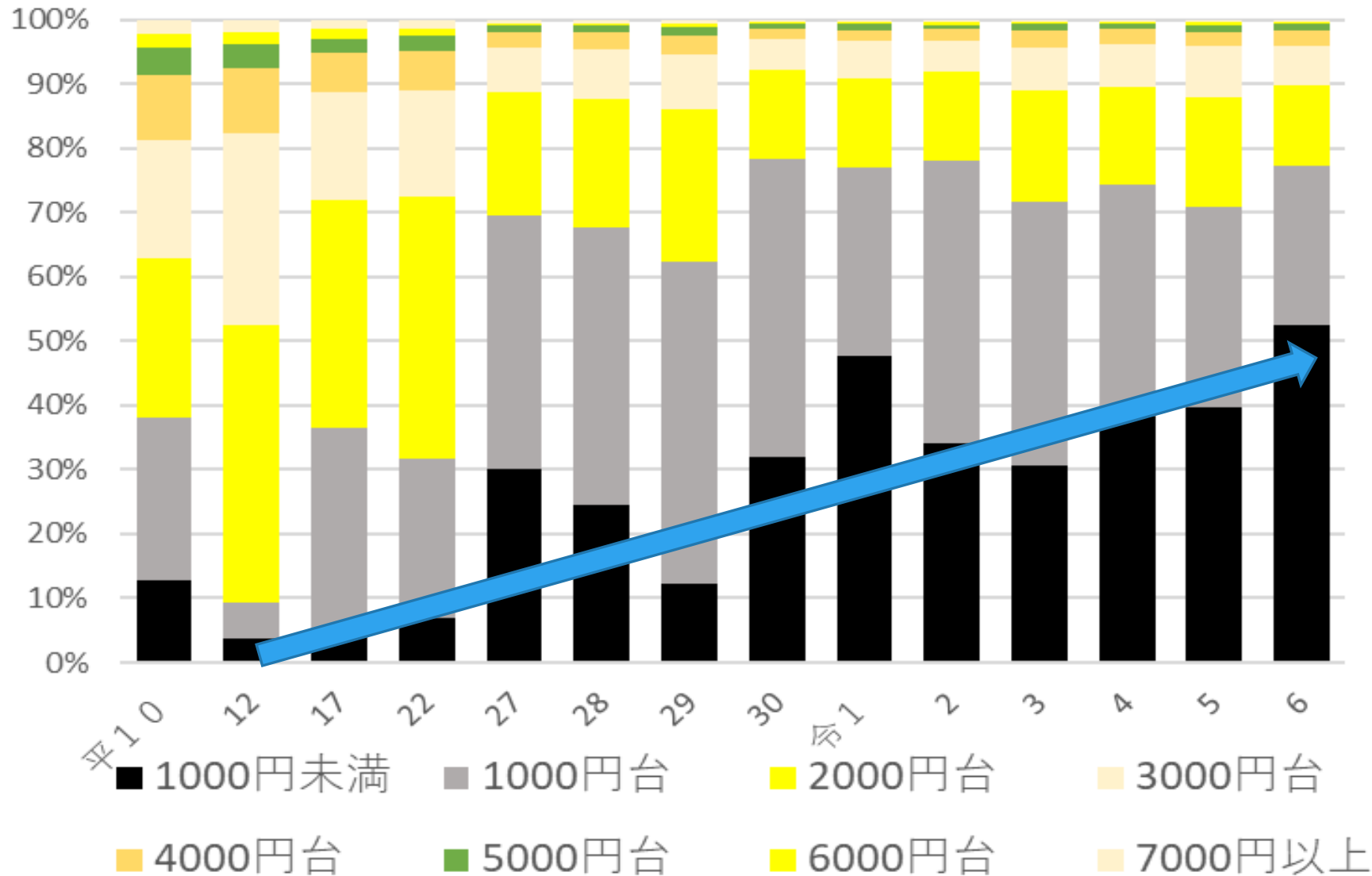
しかし、リーフ茶の消費は激減



日本では急須で淹れるリーフ茶の減少が荒茶生産量の減少につながってはいるが、消費者の飲用量は飲み方の変化に伴う消費者の飲用量は大きく変化していない。

静岡茶市場の取扱量の推移(一番茶)

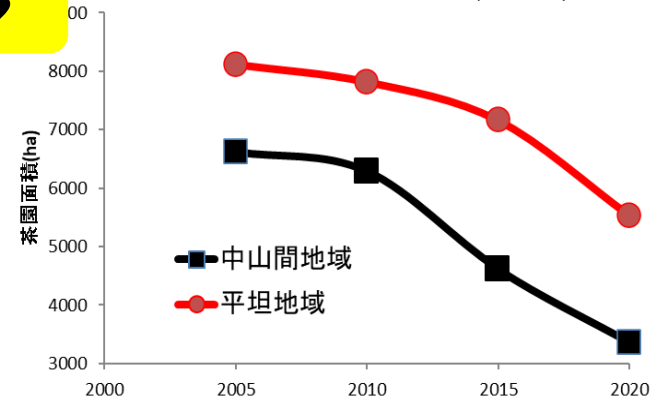
静岡県茶業の現状(令7)から作図



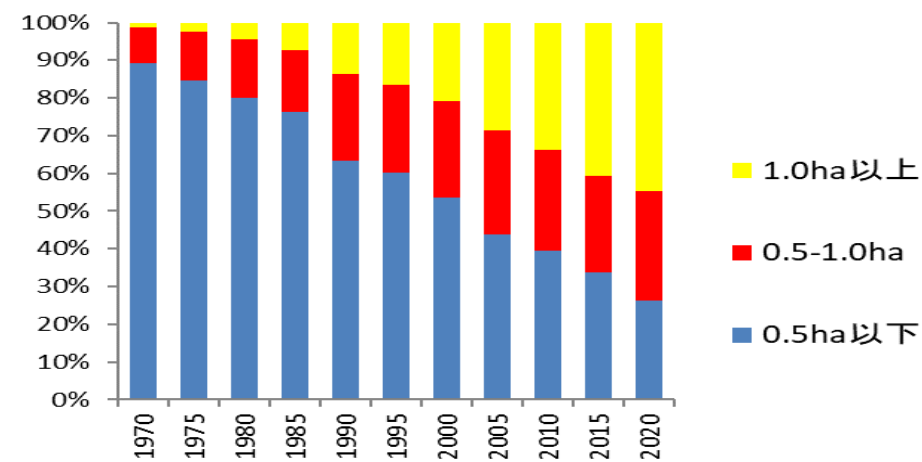
静岡茶市場での一番茶価格も10年ほど前から低価格帯のものが増加している。

緑茶の生産実態の推移

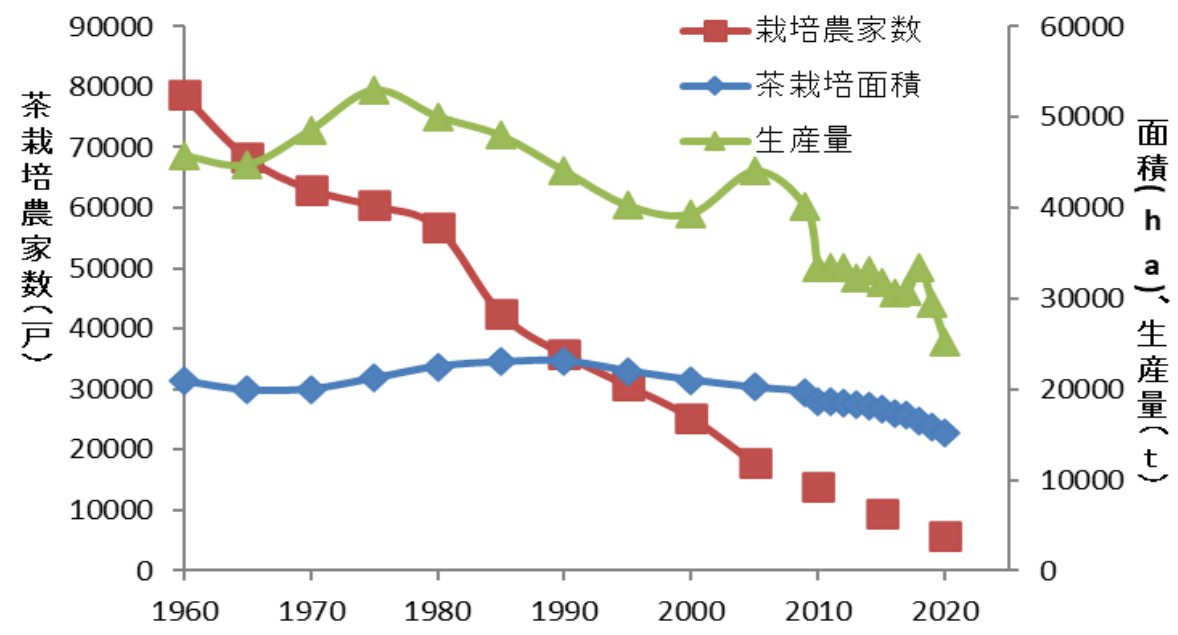
静岡県茶業の現状(令7)から作図



中山間地と平坦地における茶園面積の推移



栽培農家の規模の推移



県内の茶栽培面積・農家数・生産量の推移



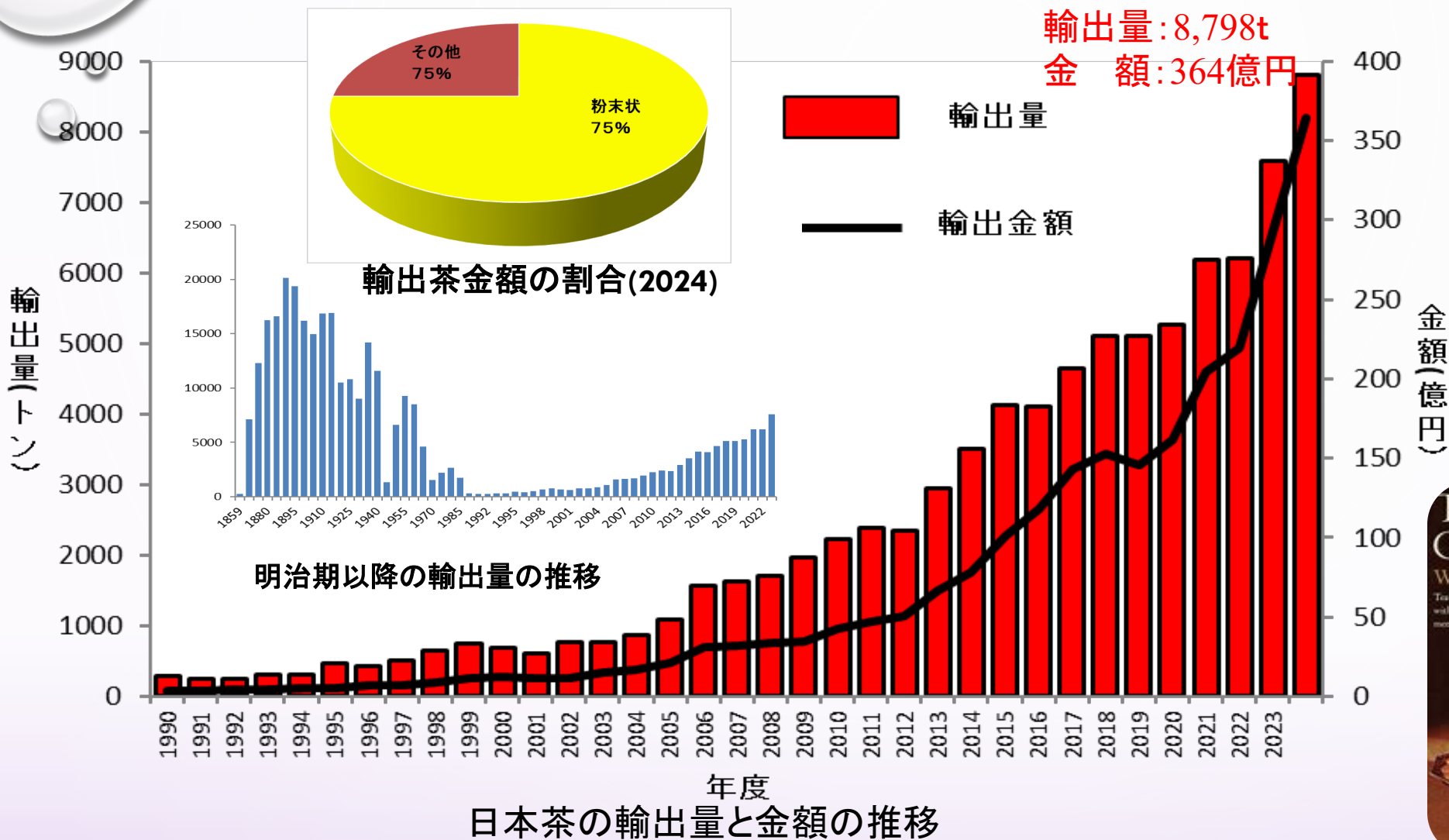
茶価の低迷により栽培農家は激減した一方、栽培農家の生産規模は拡大傾向にある。平坦地に比較して中山間地ではその傾向が強く、放棄茶園も多い。

日本茶の輸出量と金額の推移

静岡県茶業の現状(令7)及び日本茶輸出促進協議会資料(令7)から作図

2024年
輸出量: 8,798t
金額: 364億円

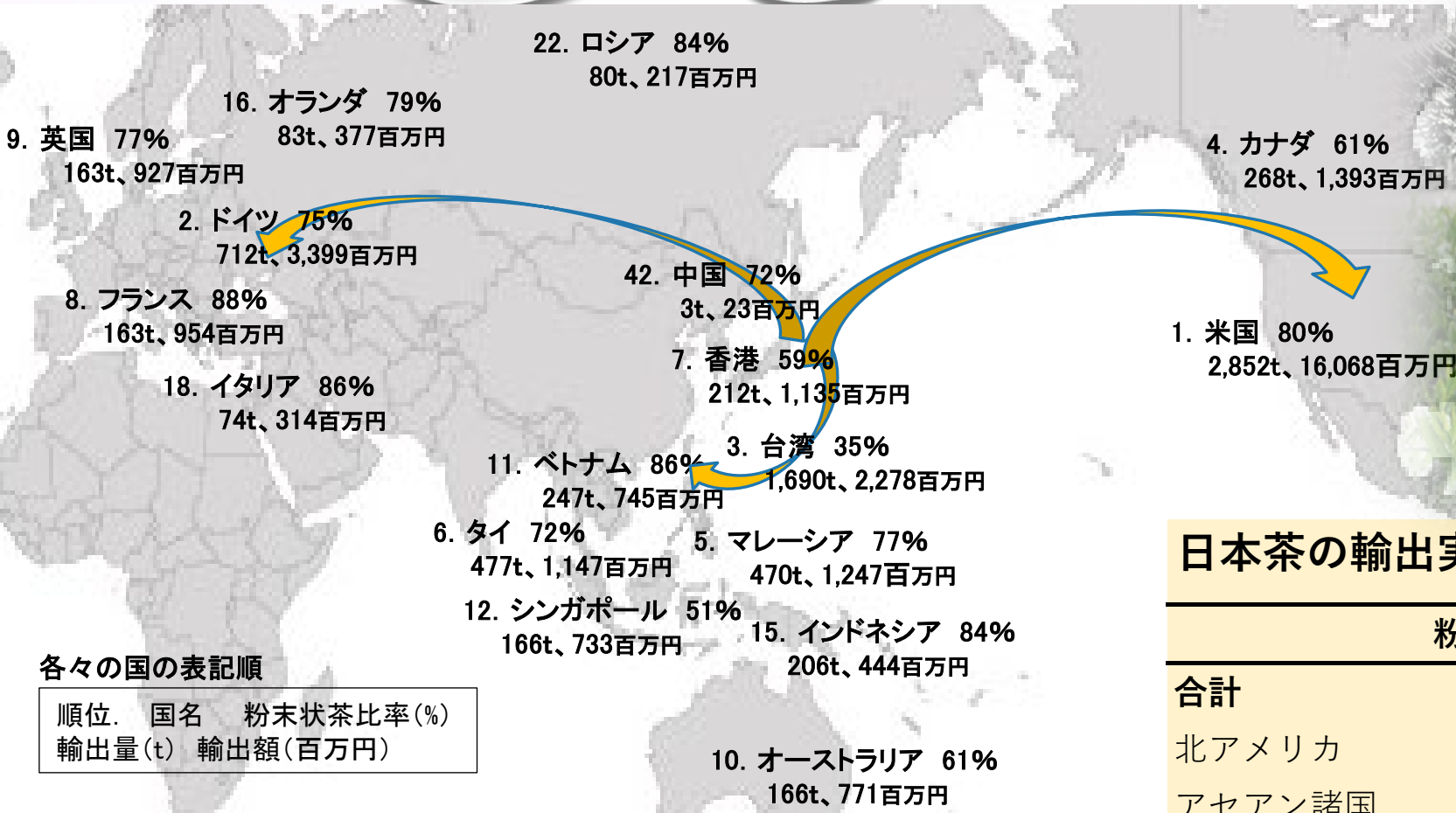
輸出は粉末状の茶を中心
に堅調



近年、日本茶の輸出は健康、日本食、抹茶ブームの影響を受け、粉末状のお茶を中心に堅調に増加している。

日本茶の世界各国への輸出状況

日本茶輸出促進協議会資料(令7)から作図



日本茶の輸出実績(2024)

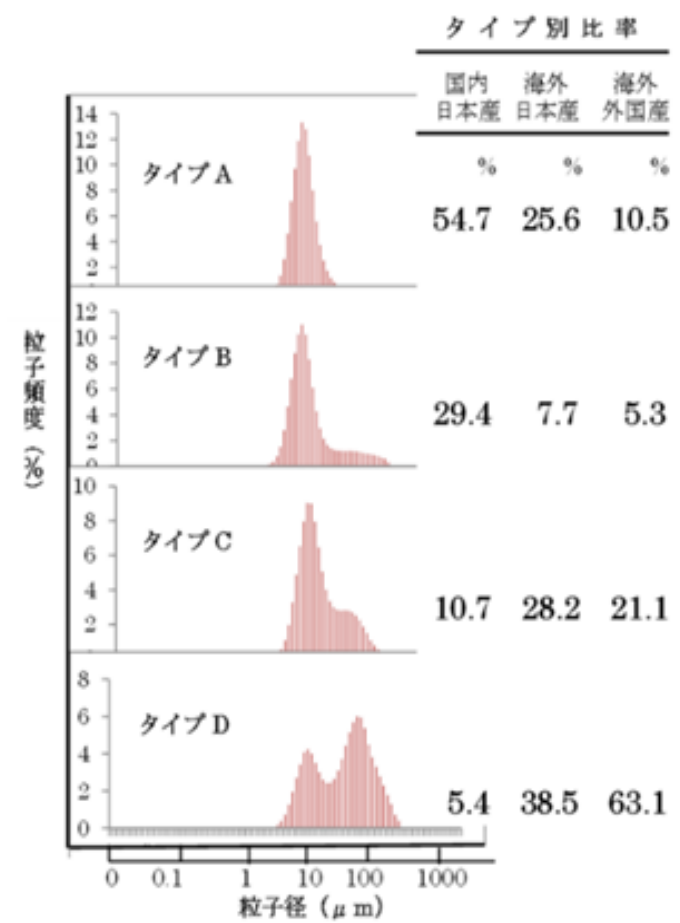
	粉末茶比率(%)	輸出量(t)	輸出金額(百万円)
合計	75	8,797	36,378
北アメリカ	75.6	3,123	17,462
アセアン諸国	76	1,750	5,081
EU諸国	76	1,266	6,491
その他	—	2,658	7,339

世界各国への日本茶の輸出状況(2024)

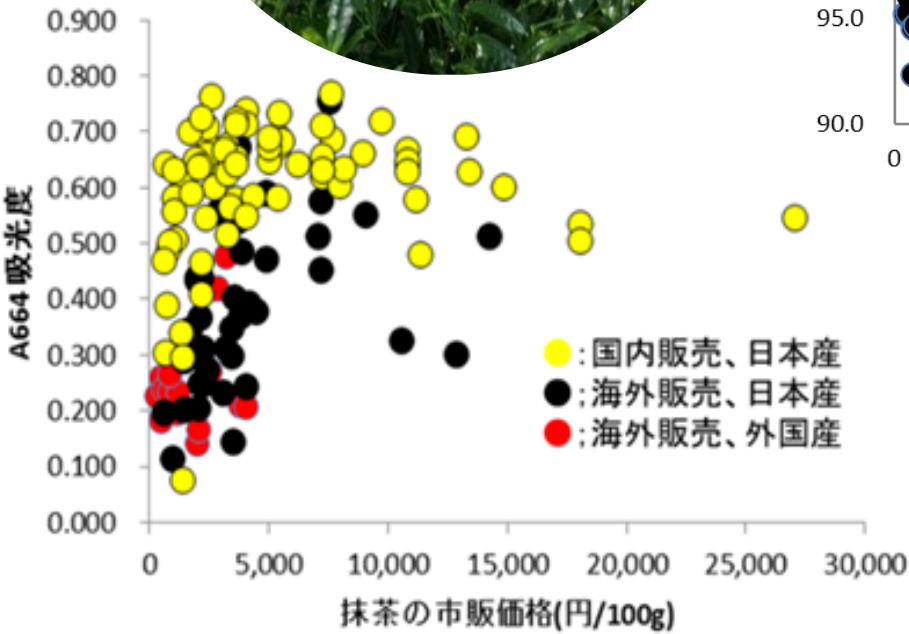
日本茶の輸出先はアメリカ、ドイツ、台湾をはじめ、100ヵ国程度に輸出している。
国により、輸出価格や茶種が異なる傾向がある。

抹茶の特質 (粒子径と色)

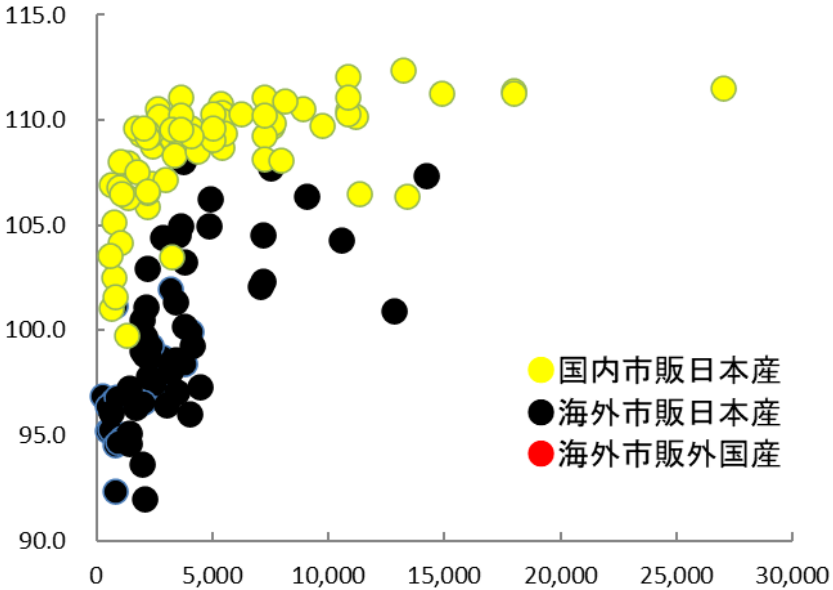
静岡県立大学茶学総合研究センター実績報告書(令2)より



国内外で購入した抹茶粒度のタイプ別比率



国内外で購入した抹茶のA₆₆₄吸光度



抹茶の市販価格(円/100g)

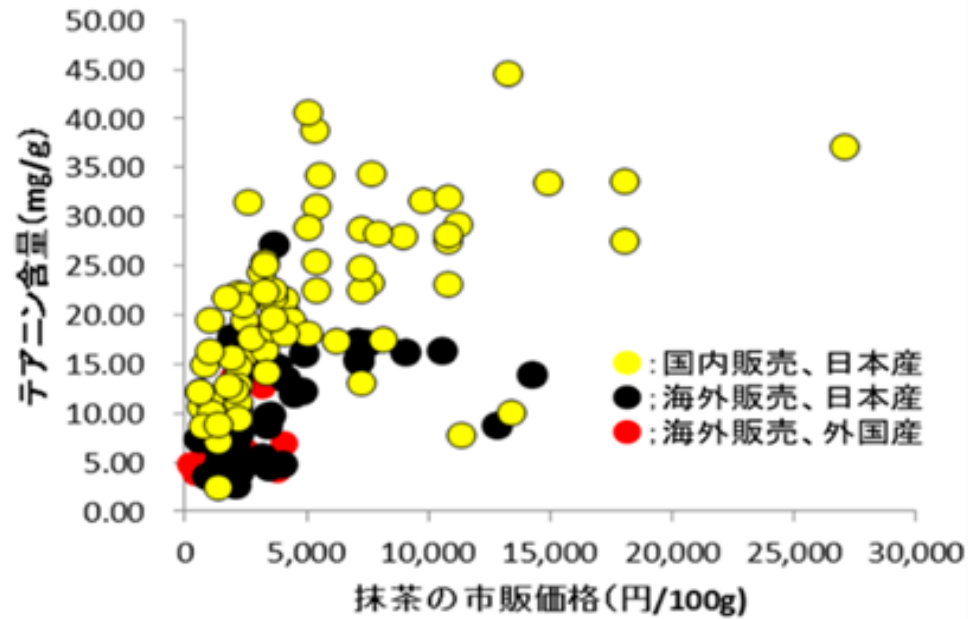
国内外から購入した抹茶の色相(h)角度

色相: 人間が目を見たときに見える色

被覆をすることにより葉色は緑色を増す

国内外で販売されている抹茶の粒子径や緑色度は様々であるが、その良悪は価格にも反映されている

抹茶の特質（化学成分）

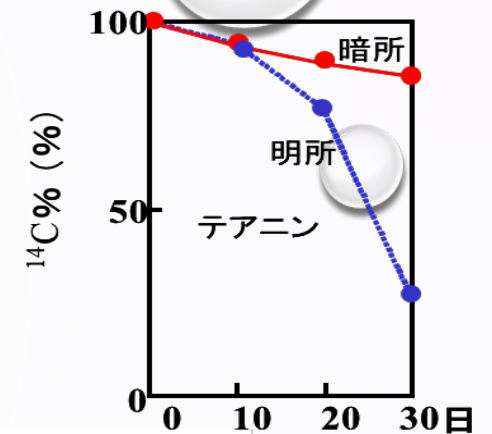


国内外で購入した抹茶のテアニン含量

抹茶の品質を評価する上で、テアニン含量は非常に重要。茶期によってもその成分量は異なるが秋冬番茶では極端に少なくなる

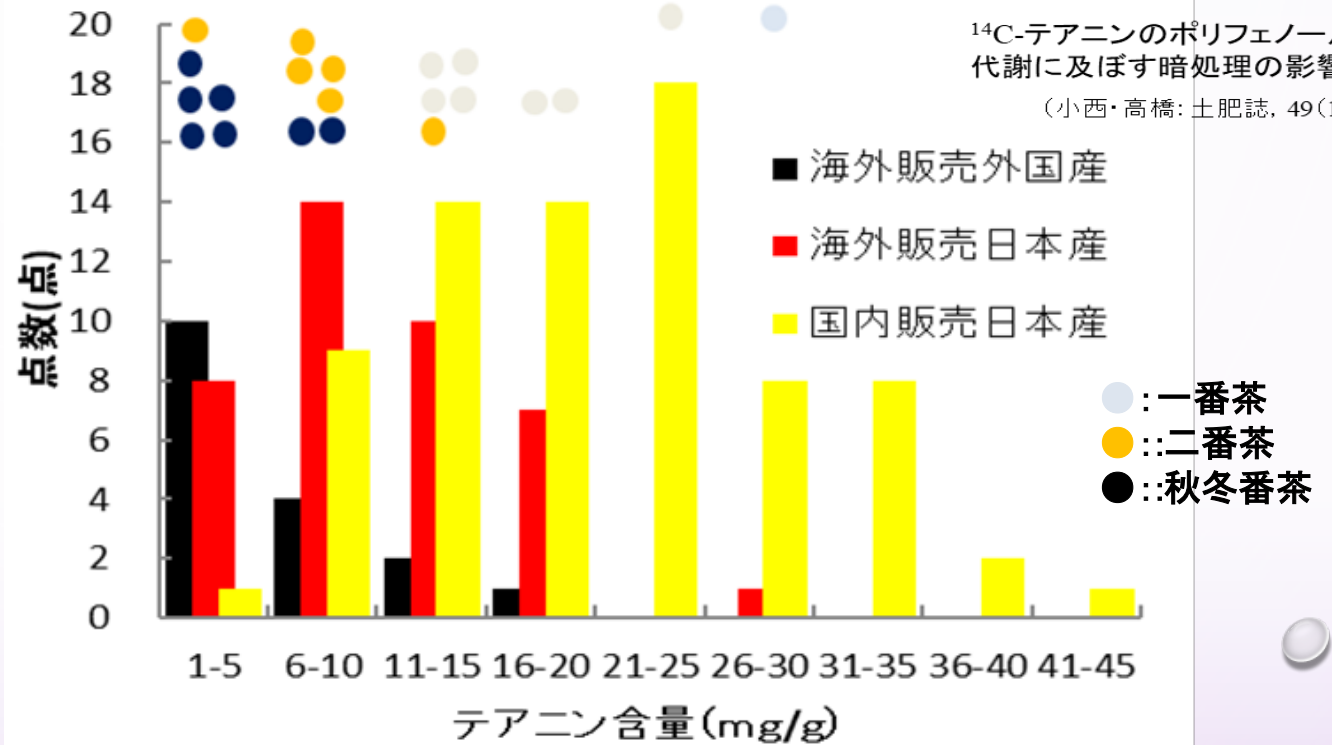
静岡県立大学茶学総合研究センター
実績報告書(令2)より

☆明所(被覆無)では
テアニンが減少



14C-テアニンのポリフェノールへの代謝に及ぼす暗処理の影響

(小西・高橋:土肥誌, 49(1969))



国内外から購入した抹茶と静岡抹茶のテアニン含量

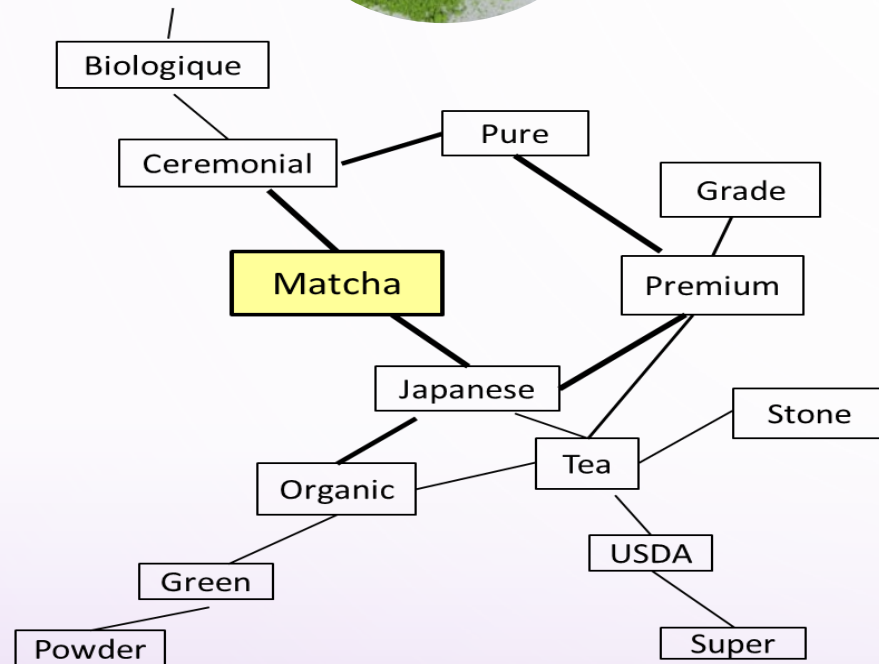
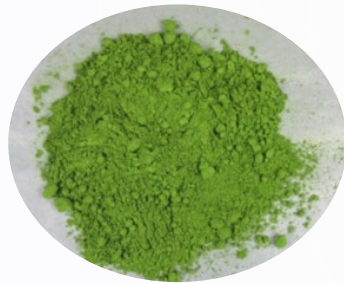
国内外で販売されている抹茶のテアニン含量は価格が高いほど多い

抹茶の特質 (トレンドサーチ解析)

静岡県立大学茶学総合研究センター
実績報告書(令2)より

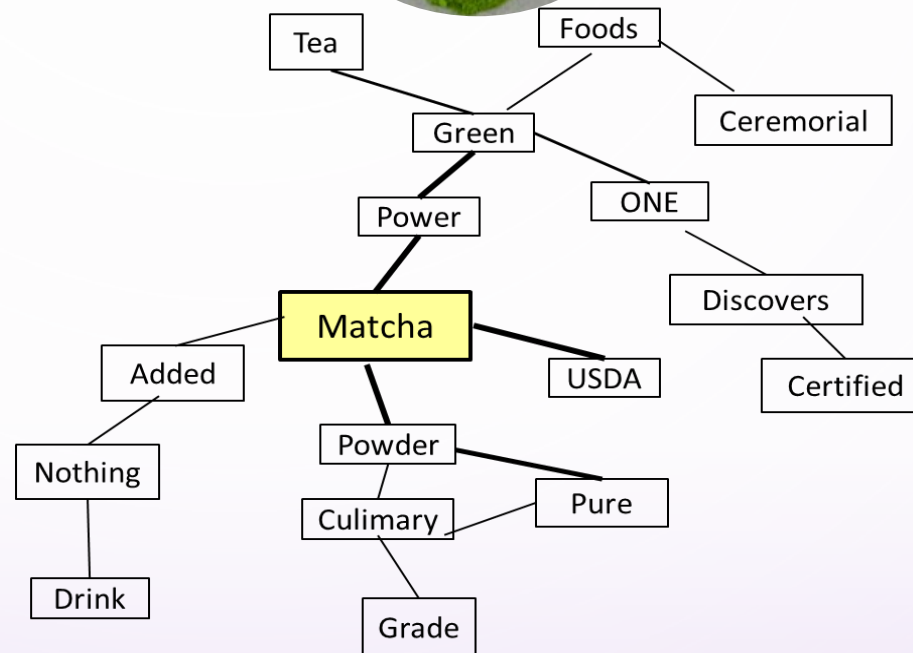
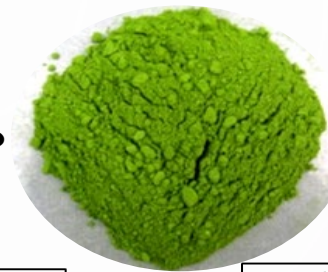


抹茶
(一番茶)



5,000円/100g以上の抹茶

食材用抹茶？
(秋冬番茶)



1,000円/100g以下の抹茶

トレンドサーチ解析

米国で市販される抹茶のパッケージに記載されているキーワードを用いてのトレンドサーチ解析
(※太線ほど関連性が高い)

テキストマイニングツール:トレンドサーチ2008で解析

価格帯の異なる抹茶のトレンドサーチ解析

国内外で販売されている抹茶と食材用抹茶では消費者に与えるイメージも異なる

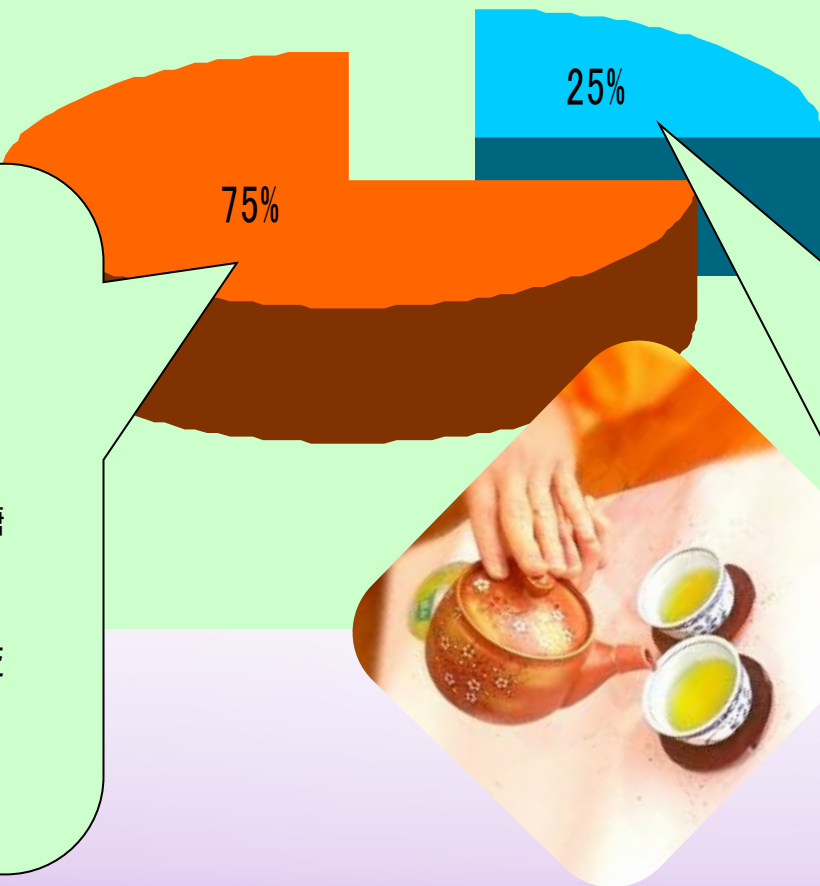
抹茶と粉末茶では機能性も異なる

抹茶：碾茶(被覆栽培した茶葉を揉まずに乾燥したもの)を茶臼等で粉末状にしたもの

粉末茶：緑茶を粉碎機などにより粉末状にしたもの

不溶性成分

- ☆食物繊維(20～30%);
便秘予防、大腸がん予防、心疾患予防
- ☆たんぱく質(24%); 栄養
- ☆βカロテン(20mg%);
抗酸化、抗がん、抗糖尿、抗心疾患、免疫活性
- ☆ビタミンE(25～70mg%);
抗酸化、抗がん、免疫活性
- ☆クロロフィル(0.80%);
がん予防、抗突然変異、抗腫瘍、免疫活性



水溶性成分

- ☆カテキン類(10～18%);
抗酸化、抗菌、抗がん、生活習慣病予防、消臭、抗アレルギーなど
- ☆カフェイン(3～4%); 眠気防止、強心、二日酔い防止
- ☆ビタミンC(200mg%); 抗酸化、免疫活性
- ☆ビタミンB(1.4mg%); 抗酸化、口内炎予防
- ☆テアニン(0.6～2%); リラックス、血圧効果、抗認知機能予防 などなど

抹茶と粉末茶の機能性の違い

	抹茶	粉末茶
抗酸化関係成分		
カテキン類	7～9%	< 10～13%
ビタミンC	60mg	< 260mg
ビタミンE	28mg	> 12mg
抗ストレス、脳・神経機能調節効果		
テアニン	◎	○

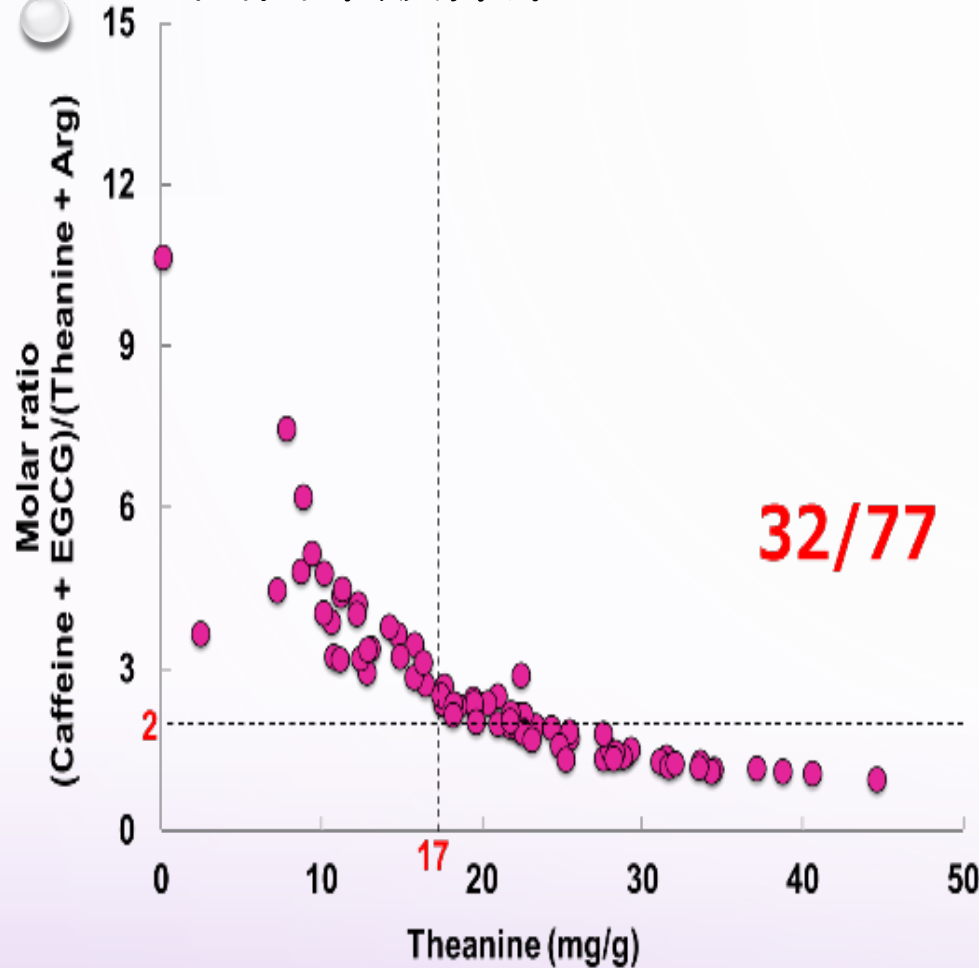


砂糖や牛乳の入ったものには少々渋味のある粉末茶が美味しい

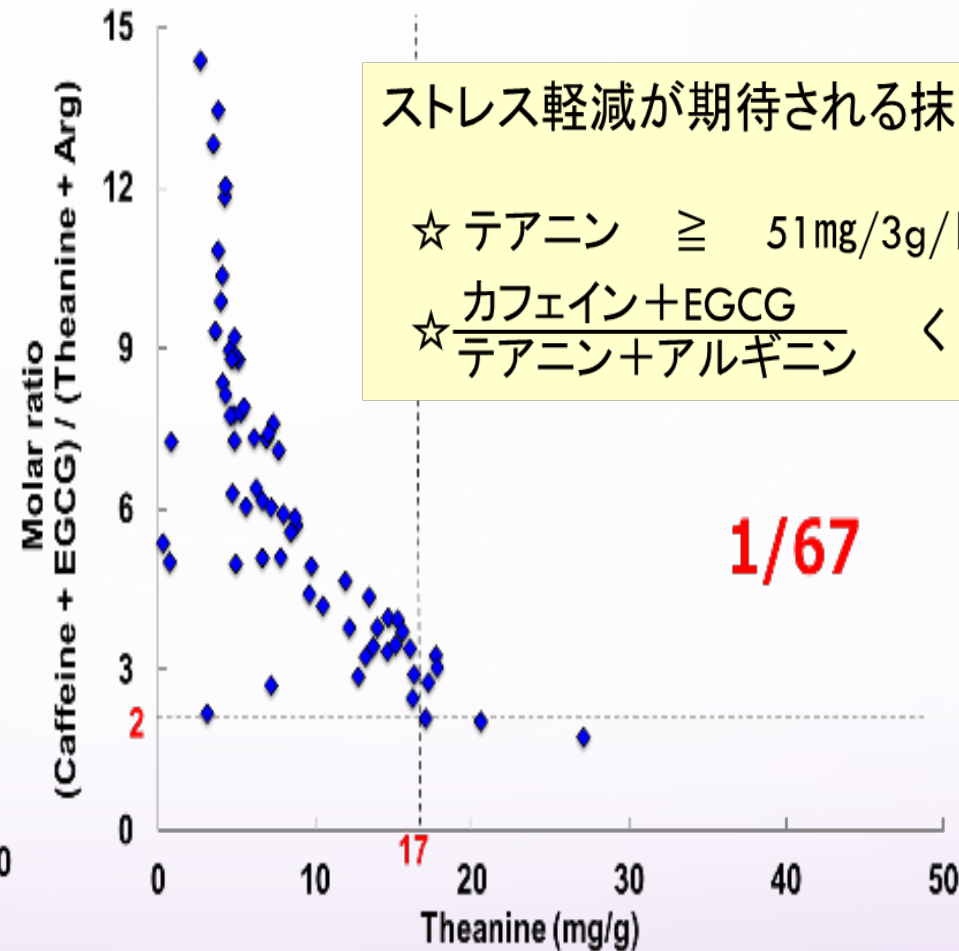
抹茶の特質（国内外で市販される抹茶の機能性）

静岡県立大学茶学総合研究センター
実績報告書(令2)より

国内市販抹茶



海外市販抹茶



ストレス軽減が期待される抹茶組成

☆ テアニン $\geq$ 51mg/3g/日

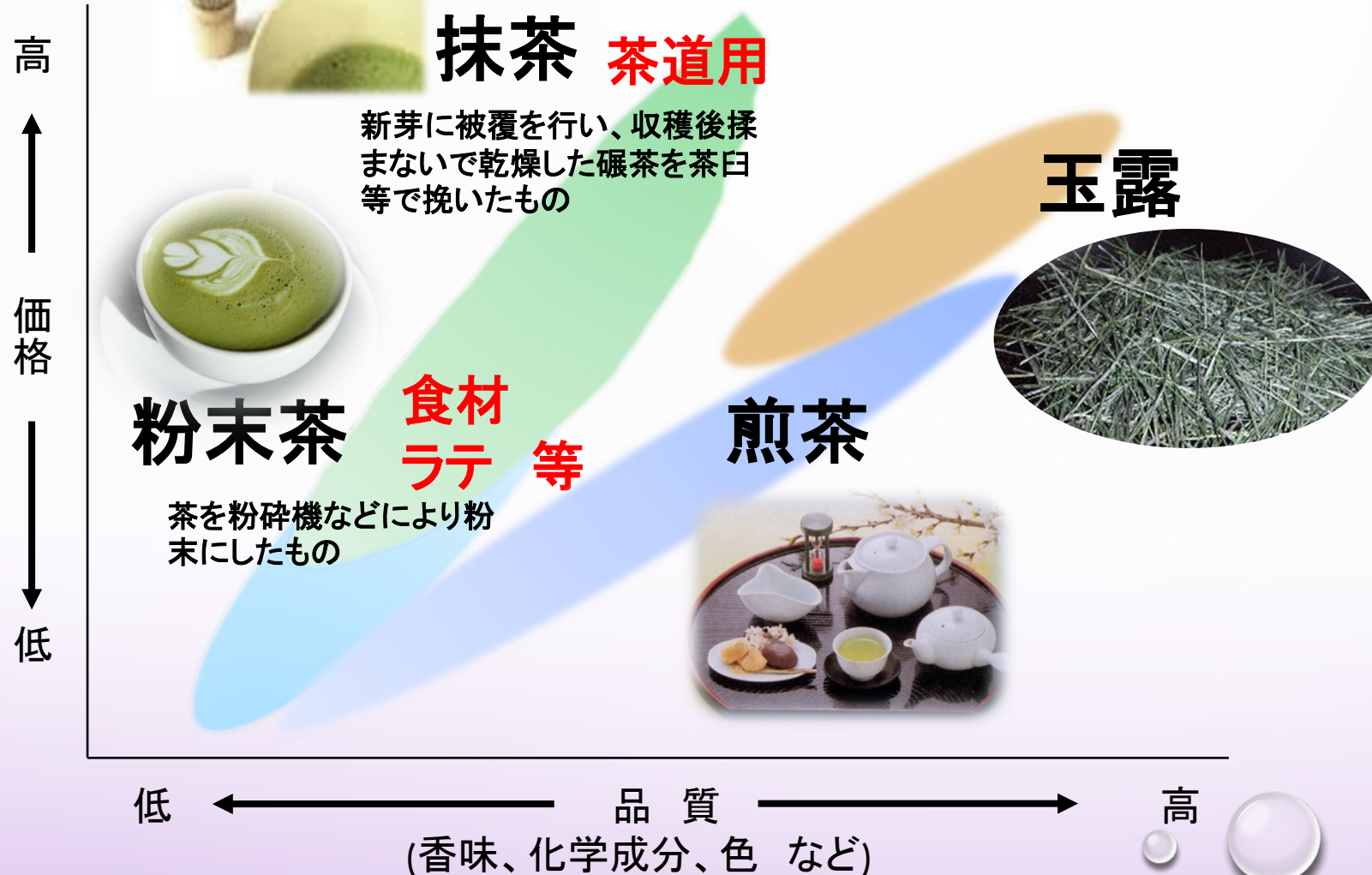
☆ $\frac{\text{カフェイン} + \text{EGCG}}{\text{テアニン} + \text{アルギニン}} < 2$

国内産でも、二番茶期中盤以降の新芽から作られる抹茶ではなかなか優位に立てない

国内外で市販されている抹茶の化学成分から見た機能性(抗ストレス効果)には大きな違いがみられる

日本茶のブランディングに向けて

日本茶には抹茶と煎茶の二大茶文化がある。いずれも希少な蒸し製で作られた特徴あるお茶であり、世界的にも関心が高まっている。これらのお茶の更なる市場拡大とブランディングが望まれている



日本茶の特質をさらに活かすために

1. 色

⇒被覆技術、品種

2. 香味

⇒茶期、品種、被覆技術、施肥技術、加工技術

3. 機能性

⇒茶期、被覆技術、施肥技術

4. その他

⇒文化性、歴史性、希少性等
ブランディング、認知度の向上、新商品の開発など

日本茶のブランディングに向けて

表 ブランドに関する商標とGIとの関係など

種類	管理者	法的保護	主な目的
地域団体商標	特許庁	商標権	地域ブランドの独占的使用
地理的表示(GI)	農林水産省	行政登録＋刑事罰	産地・品質の公的保護
自治体ブランド	各自治体	なし(推奨・認定)	地域振興・観光効果

表 テロワールとGIとの関係

比較項目	テロワール	GI (地理的表示)
意味	自然・文化的背景が製品の特性を形づくる考え方	その特性を法的に保護する制度・知的財産
根拠	土壌・気候・地形・品種・栽培方法・文化など	地域名＋生産基準＋品質特性の結びつき
法的効力	なし	あり
対象範囲	地域や産品	登録された特定の産品のみ
目的	産品の個性や風味を説明	地域ブランドの保護と信頼性維持

表 各茶種別生産量の上位3位まで

	第1位	第2位	第3位
玉露	三重県	京都府	福岡県
かぶせ茶	三重県	奈良県	静岡県
てん茶	鹿児島県	京都府	静岡県
煎茶	静岡県	鹿児島県	三重県
釜炒り茶	宮崎県	佐賀県	大分県
蒸し製玉緑茶	長崎県	佐賀県	熊本県

表 府県別の品種導入面積の違い

府 県 名	やぶきた比率 (%)	第2位	第3位	第4位	備 考
埼玉県	64.6	さやまかおり	ふくみどり	ほくめい	耐乾性品種
静岡県	90.7	さやまかおり	つゆひかり	おくみどり	煎茶用品種
愛知県	51.1	さみどり	おくみどり	さえみどり	碾茶用品種
京都府	57.6	おくみどり	さみどり	ごこう	碾茶用品種
宮崎県	50.3	さえみどり	おくみどり	ゆたかみどり	早生品種
鹿児島県	33.0	ゆたかみどり	さえみどり	おくみどり	早生品種

物語の素材(地域資源)はある

差別化要因としての地域資源の掘り起し

①歴史・文化

地域のは固有の茶の文化あり

②自然環境、地形、風土

山あり谷あり、その地域の風土あり

③生産加工方法

栽培方法、加工方法

④飲み方、楽しみ方

⑤パッケージ、容器、袋



情報、**PR(周知が重要)**
総体としてのブランド



ブランド化にとり重要なこと

- ①差別化されていること
- ②限定品、奇少価値
- ③誰でもが買えないこと
- ④こだわり、ほんもの
- ⑤情報発信戦略
- ⑥名譽
- ⑦物語性

ブランドの決定権は消費者

ロイヤルユーザーの確保



価格競争からの脱却



ご清聴ありがとうございました

